

5月のねらい及び今月の各クラスの自己評価・自己評価を踏まえての改善点・保護者と地域への子育て支援

月のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭と遊んだり、友達と好きな遊びを楽しむ。(散歩・園庭遊びなど。) ・いろいろな遊びの中で、集団遊びの中の約束や友達同士のルールがあることを知る。(鬼ごっこ・かくれんぼ・わらべうたなど。)
-------	--

クラス名	年長児(さくら組)	年中児(うめ組)	年少児(たんぽぽ組)
自己評価	<p>中心活動の中にも鬼ごっこを積極的に取り入れていった。その中で、楽しさで気持ちが舞い上がり、ルールを忘れてしまうことがあった。また、足の速さも自分で分かるようになり捕まえることを恐れているのか、鬼は嫌、「～くんが鬼なら抜ける。」等とまとまらず遊びが終わってしまうことがあった。保育教諭がやり取りにアドバイスしながら遊びを展開していった。</p>	<p>少しずつ集団遊びを活動や登園後の遊びに取り入れていく。登園後は○△□鬼を年長児や保育教諭がやっている姿を見て、「やってみていな」、「楽しそうだな」と感じて参加してくれる子の姿が見られていた。またクラスで椅子取りゲームをやってみる。昨年度もやっていたこともありルールを振り返ってから行うことでクラス全体で楽しむ事ができたように感じる。</p>	<p>外での遊び、散歩、室内での遊び、生活の中で一つ一つルール、お約束を確認しながら行う。多くても「3つ」の約束にして、毎回丁寧に伝えていくと、友達に教えてみたり、「こういう時はこうするんだよね!？」という声も聞こえてきた。玩具の貸し借りも「長い針が3になったら」「10数えて待つ」等繰り返し伝えと、物の取り合いでのトラブルが減ってきているように感じる。小さなルールも大切にしていきたい。</p>
自己評価を踏まえての改善点	<p>楽しさからルールへの意識が薄れてしまう事があるため、まずは遊びを繰り返し楽しみながら次第にルールの中でということ十分に意識できるように援助していきたい。また、保育教諭はタイミングを見極めて時に遊びを中断しながらルールを振り返ったり、ルールの内容について考えたりすることで遊びにメリハリをつけていきたいと思う。</p>	<p>保育教諭が鬼等になりまず集団遊びが楽しいものだと思ってもらえるようにする。その中で「負けて悔しい」などの感情が芽生える。そんな気持ちや姿を大事にしながらい今後とも集団遊びからルールや約束を知ってもらえるようにしていきたいと思う。</p>	<p>繰り返し伝えることも大切だとは思いますが、言葉が多くなりすぎないように簡潔に伝わりやすく、伝えていくことを心掛けたい。散歩もタイミングが合わない事もあり、中途半端なかかわりになってしまっているように感じるので、テンポよく進めていきたい。</p>
保護者と地域への子育て支援	<p>友達との関わりが深まっているため、やり取りを紹介することで一緒に育ちを感じたり困難さを抱えていることへの支援方法を考えたりしていった。続けていきたい。</p>	<p>園での様子をドキュメンテーションやクラス便り等で伝え、育ちや成長を感じてもらいながら、共に考えながら更に信頼関係を築けるようにしていきたい。</p>	<p>友達とのやり取りや園での様子、育ちをお便りを通して伝え、保護者とも一緒に関わりを考えていきたい。</p>
クラス名	2歳児(すみれ組)	1歳児(ふたば組)	0歳児(つぼみ組)
自己評価	<p>好きな遊びをみつれたり、友だちと一緒に遊ぼうとする姿が増えてきている。「かして」とやりとりをし、上手くやり取りができない時は、保育教諭に助けを求め自分の思いを言葉で伝えられるようになってきている。保育教諭は仲立ちをしながら、相手の気持ちを伝えたり、気持ちを代弁しその場に合った言葉を伝えていく。気持ちを受けとめていくことで、落ち着いて自分で気持ちを話したり切り替えたりすることが出来ていたように感じる。</p>	<p>保育教諭との信頼関係が出来ると一気に視野が広がり遊びへと意欲的になって行く様子が感じることが出来た月であった。室内ではサーキット遊び、戸外では園庭遊びや散歩を通して、くぐる、登る等身体を多様に使った遊びの設定を楽しんでいった。まだまだ足元が不安定で転んだり、足を滑らしたりするので傍で見守りながら、さり気なく援助し、安心して楽しめるよう環境を整えることが出来た。</p>	<p>伝い歩きやその場に立ち上がったたり、はいはいをしながら自分で行きたい所へ移動する姿が更に増えてきた。視野が広がり、色々な物や行動に興味を持つようになったがまだ足元が不安定で転倒などもあるが、子どもの気持ちを優先し、行きたい所へいく姿を見守り事故や怪我には十分に気を付けて過ごすことが出来た。</p>
自己評価を踏まえての改善点	<p>引き続き気持ちを受けとめつつ、代弁をしその場に合った言葉を伝えていく。又、相手にも思いや気持ちがある事を伝え、喧嘩になった時どう解決していったらいいのか提案したりして、納得し気持ちを切り替えて遊べるように関わっていく。友だちと関わりながら遊ぶことを楽しんでいる為、集団遊びを多く取り入れていきみんなで遊ぶ楽しさを味わえるようにしていきたい。</p>	<p>保育教諭同士、立ち位置やお互いの動きを意識し、一人は必ず全体に目を向けるようにしていく。人の出入りで泣きたくなる子や特定の保育者が良いと泣く姿もあるがどの保育者も自分の事を見ていることや遊んでくれるという安心感を持ってもらえるよう関わっていききたい。</p>	<p>引き続き事故や怪我には十分に気をつけながら、自立歩行へ向けての関わりや活動を行っていく。保育者との愛着関係を今後も築き安心した生活の中で色々なことに興味を持って行けるようにする。</p>
保護者と地域への子育て支援	<p>身の回りのことや、トイレトレーニング等挑戦している事や興味をもってきている事を伝えていき、家庭でも準備等をお願いしたり、一緒に取り組んでいけるようにする。</p>	<p>園での生活の様子や育ちを伝えながら、お家での様子も知らせて頂き、育ちや成長を共有したり、子育てに対する、不安感や悩みを緩和できるよう共に考えていきたい。</p>	<p>園での様子や成長していることや出来た事などをお便り帳でお伝えしていく。お家での様子をも聞いたりしながら一緒に成長をする姿を見守って行ける関係性を作っていく。</p>